

## DuMA ニュースレター

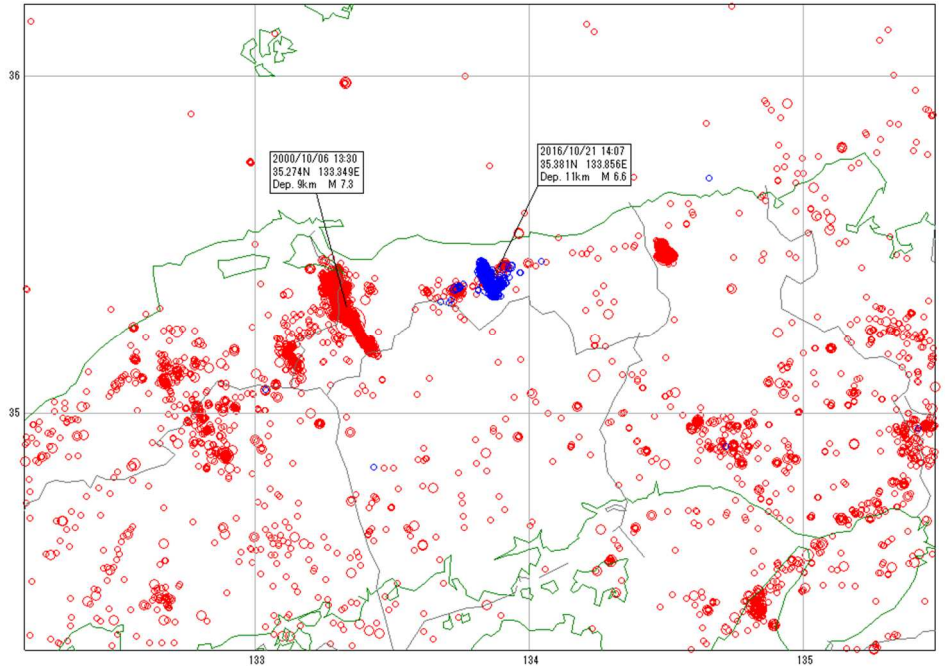
2016年11月14日

### 鳥取県中部の地震について

10月21日に鳥取県中部でマグニチュード6.6の地震が発生しました。

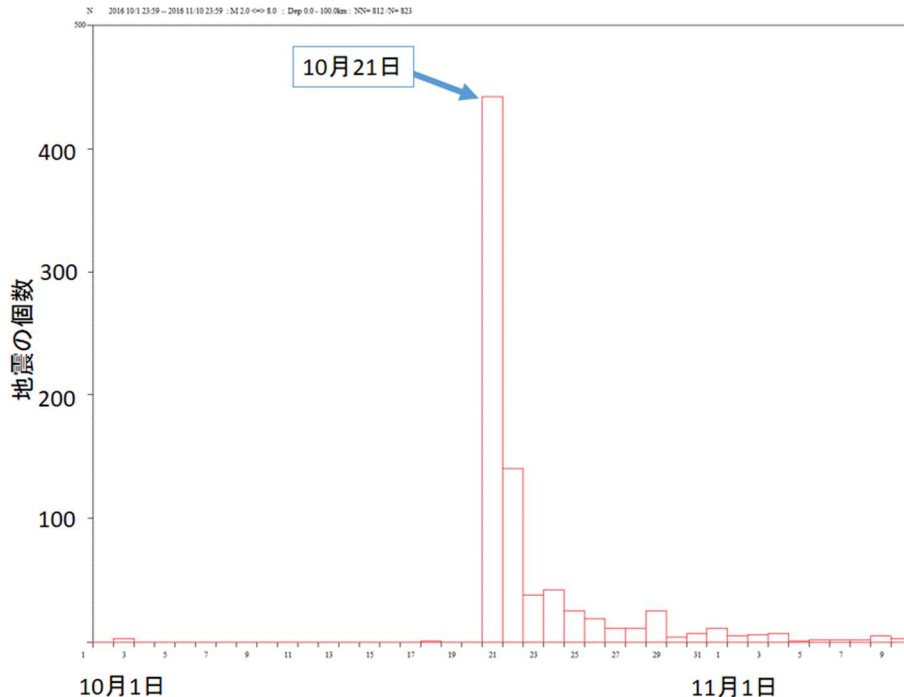
11月7日付のニュースレターで、まだ中国地方には地震活動静穏化領域が残っており、今後さらなる活動が発生する可能性が残っている事をお知らせしましたが、少なくとも鳥取県中部での活動は順調に低下している事がわかりました。

現時点では鳥取県でさらに大きな地震が発生する可能性は小さくなったと考えられます。



右上の図は赤の○が2000年以降の地震活動で、青の○が10月21日以降、11月10日までの地震活動です。余震活動の領域が2000年の鳥取県西部地震(M=7.3)よりかなり小さい事もわかります。

下の図は、10月1日から11月10日までの鳥取県中部の地震活動で、グラフは一日ごとの地震発生数を示しています。この図から順調に地震活動が減衰している事がわかります。



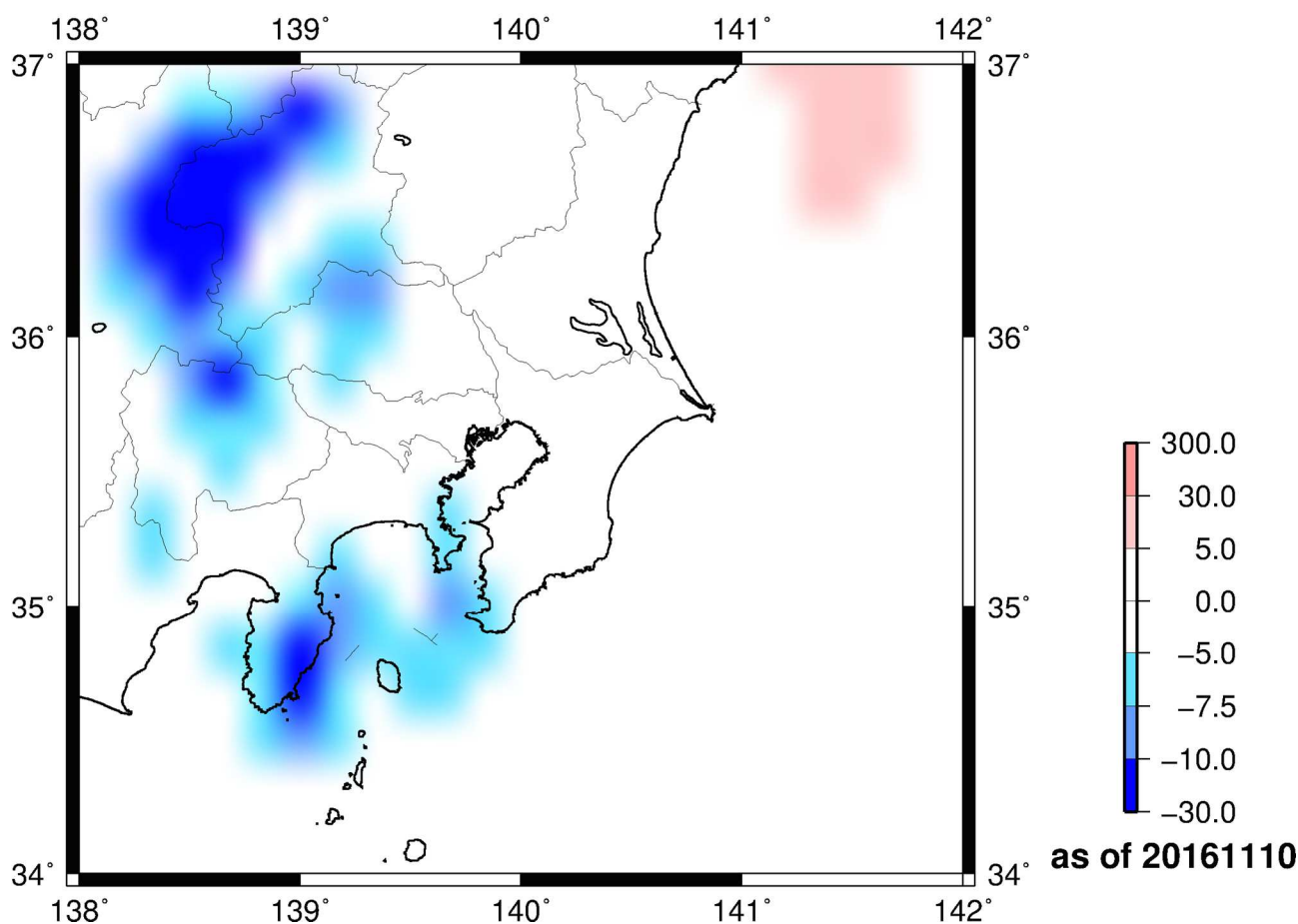


## 首都圏広域の状況

下の地下天気図®は、2016年11月10日時点のものです。関東地方は沈み込むフィリピン海プレートの下にさらに太平洋プレートが位置するという世界でも指折りの複雑なプレート配置となっています。

そのため、首都圏の広域の解析では、他の地域では地表（つまり深さ0km）での地下天気図®をお示ししていますが、下の地下天気図®は地下20kmという深度で計算したものです。いわゆる気象の天気図が地上における気圧配置を示したものだけでなく、高層天気図というある特定の気圧の高度を示したものもあります。つまり地上天気図も高層天気図も同じ日時に同時に複数枚存在します。地下天気図®も解析パラメータの組み合わせにより、同じ地域でも同時に複数の地下天気図®が存在する事にご留意ください。DuMAではできるだけ地域やターゲットとする地震の大きさ（M7クラスなのか、M8クラスなのかというような事）を考慮し、最適なパラメータを探索しています。

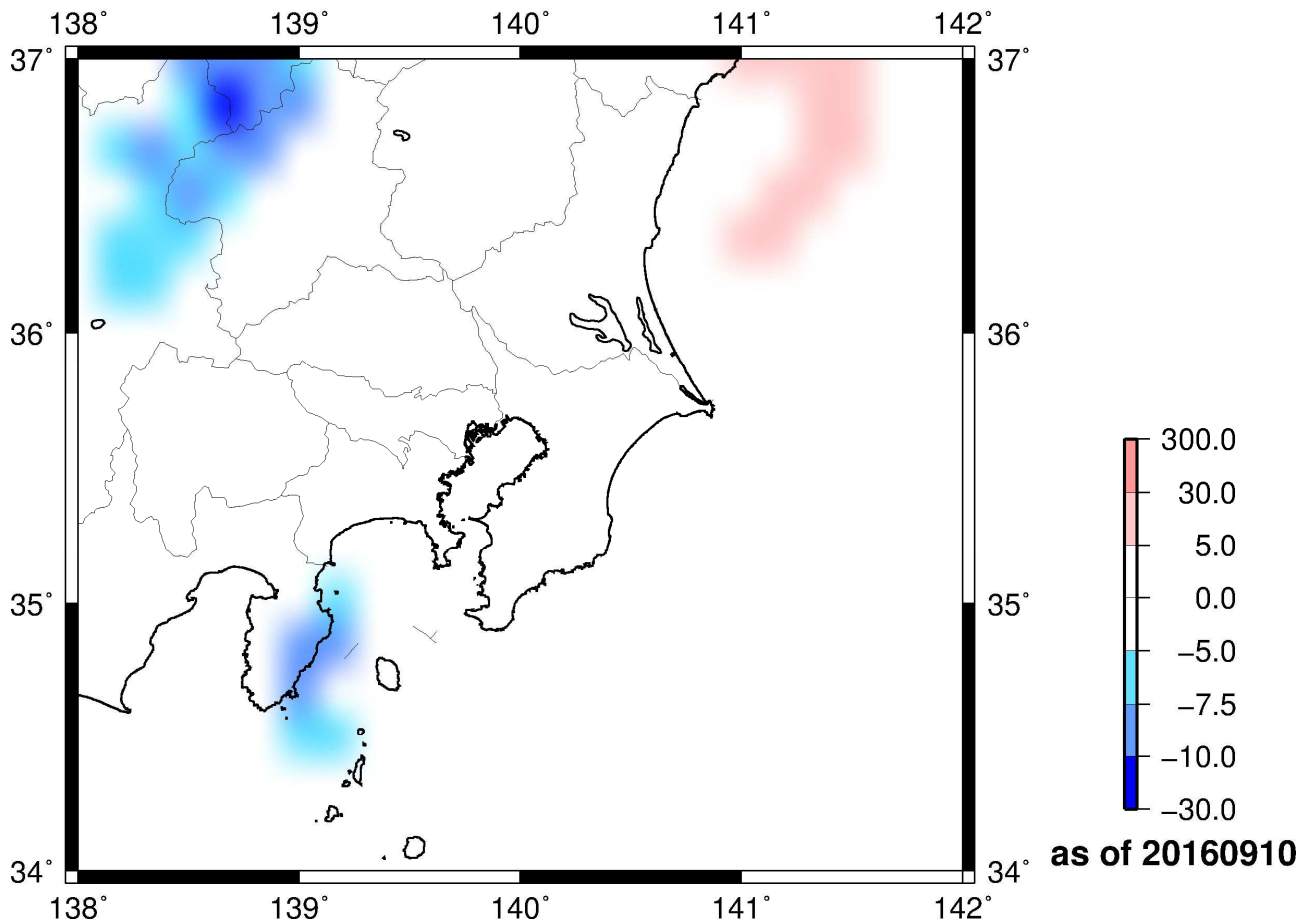
最近、関東地方の地震活動が全般に低下しており、下の2016年11月10日時点のものでは、長野県や群馬県付近にかなり青い領域（静穏化領域）が出現している事がわかります。この傾向は9月19日付の情報で示した同じ首都圏広域の解析でも見えだしていました。また11月7日のニュースレターでお示した日本列島陸域の解析で顕著であった新潟県を中心とした静穏化領域に対応するものと考えています。





下の図は 9 月 19 日のニュースレターでお示した今年、9 月 10 日時点の地下天気図を再掲いたします。

少し関東地方、特に北関東から北信越にかけての地震活動の変化が進行しているようです。



今年 9 月 10 日時点の地下天気図